

JCC-JSPCCS Joint Symposium (II-JCCJS)

先天性心疾患に合併する上室頻拍：術前から術後遠隔期まで

座長:住友 直方(埼玉医科大学国際医療センター 小児心臓科)

座長:簗 義仁(昭和大学病院 小児循環器・成人先天性心疾患センター)

2019年6月28日(金) 09:30 ~ 11:00 第6会場 (小ホール)

[II-JCCJS-04]先天性心疾患周術期の不整脈に対する III群抗不整脈剤の効果

○戸田 紘一, 連 翔太, 葭葉 茂樹, 小林 俊樹, 住友 直方 (埼玉医科大学国際医療センター 小児心臓科)

キーワード：無+C109, アミオダロン, ニフェカラン

【はじめに】CHD周術期の頻脈性不整脈は血行動態の破綻をきたしやすく、特に Fontan術後例などでは上室性不整脈でさえ致死的になりうる。それゆえ、Amiodarone(AMD)、Nifekalant(NIF)などの III群抗不整脈薬を用いることも少なくない。AMDの有効性については知られているが、低血圧・徐脈などの副作用を起こしうる。NIFの有効性の報告はあるが小児では限られている。そこで我々は2007年4月から現在までに CHD周術期の AMD・NIFの効果を調査するため、診療録を後方視的に検討した。【対象】対象は83例(男:女=45:38、平均年齢10.8)。JET31例、AT16例、PAC8例、VT/Vf7例、SVT5例、その他16例であった。CHDは Single ventricle16例、TOF13例、HLHS 9例、VSD9例、AVSD6例、DORV5例、TAPVC 4例、ccTGA4例、その他17例であった。【結果】初回 AMDを投与したのは33例、NIFを投与したのは50例で、効果ありと判定したのは AMD28例、NIFは40例であった。Pacing併用例は59%であった。遠隔期を含め、AMD・NIFに関連する死亡例はなかった。【考察】AMD・NIFともに当施設においては CHD周術期の頻拍発作に対し有効であった。AMDはボース投与時に低血圧、徐脈が起こりやすい傾向にあった。NIFは Torsade de pointesの懸念はあるが、今回の検討では認めなかった。成人領域では AMDと NIFの使用による生存率は変わらない。【結語】CHD周術期の頻拍発作に対して III群抗不整脈薬は有効である。III群抗不整脈薬を使用する際には、Sinus rhythmに復帰するまで AAI pacingを行うことで血行動態への影響を最小限にできる。